

第 12 回『びほろ』みらいまちづくり会議 ワークショップ結果

【共創の場づくりグループ】

<行政と役割分担しながら取り組むアクション>

○拠点・施設整備

- ・パチンコ DAIGORO の跡地に子ども、中高生が集まれるプラザを。
- ・町内空き店舗をリノベーション、Wi-Fi を完備し子どもたちの自習室にする。
- ・義務教育学校完成後、使われなくなった校舎に美幌高校のキャンパスを移転する。そして、農業科を「地域資源応用科」に戻し、美幌峠を訪れる観光客へアプローチをかける。
- ・児童センターと図書館の複合施設化。
- ・シティびほろ内のスペースを活用し、パン屋・イートインカフェスタイルに。

<町民主体で取り組むアクション>

○チャレンジ・交流の場

- ・生まれたアイデアをチャレンジする場をつくる。
- ・高校生との意見交換の場。入学希望者が多い大空高校をテーマとした学生の意見交換を行ってみては。
- ・町民と外国人のビールパーティを開催する。
- ・美幌出身者で構成されるネットワークづくり

○町民と行政の対話の場。

- ・5 年（中期）学校運営計画を多世代で語る会を開催する。
- ・多世代・誰もが気軽に集まれる場を整備する。

○カフェ・コミュニティ活動

- ・高齢者カフェ（ドリンク・スキル販売）を開催。高齢者の方がドリンクを運んでくるとともに、自身もつスキルや知識を学ばせてくれる。
- ・美高カフェを開催する。（部活動として）

○文化・学習イベント

- ・町民が自身のもつスキルや知識を活かし、セミナーを開催する。（AI・囲碁・映画・数学など、もちつき・漬物も）。
- ・本棚のおすすめを話しながら本を読んでもらう場をつくる。
- ・オリンピック・芸術など世界の話を共有する機会をつくる。

<行政と町民主体の間>

- 保護ネコ活動（活動は町民でできるが、去勢手術等、町からの継続的な補助が必要）

【学校・教育・子どもグループ】

＜行政と役割分担しながら取り組むアクション＞

○体験・交流の機会

- ・高校生のインターン受け入れを強化する。
- ・学校間（小中）の交流の場を設置する。
- ・小中学生の越境体験（公共交通の乗り方体験）。
- ・こども議会の開催（子どもの意見をまちや町長へ提案）。
- ・農作物の収穫体験など「〇〇教室」（芸術・スポーツ）によって学問の面白さに触れる体験。

○教育内容・進路支援

- ・STAGE を選べる学習。
- ・子どもたちへのふるさと教育。
- ・スポーツで頑張っている子の応援（夢チャレ）。

＜町民主体で取り組むアクション＞

○放課後・居場所づくり

- ・学習に特化した放課後の子どもの居場所作り（小・中・高校生対象）。
- ・子ども食堂にフリーの塾を開設する。
- ・保育付き学習の場を整備する。

○子育て・相談支援

- ・子育ての困り事を気軽に相談できるスペースをつくる。
- ・子どもや住民へのサポーター活動。

○高校生の活躍・地域参加

- ・高校生のボランティア活動（除雪）。
- ・高校生が地域の祭りやイベントへ出店（サポート）。
- ・美高マルシェ（他の町でも展開する）。
- ・美高キッチンカーの他の町への出張出店。

○教育の質・地域スポーツ

- ・学校が良質な教育を提供できているかチェック・評価する機能の設置。
- ・地域スポーツのクラブ化（町民が指導者）。

＜行政と町民主体の間＞

高校生対象の公設塾を開設する（総合選抜入試対応）。

【農業・観光・産業グループ】

＜行政と役割分担しながら取り組むアクション＞

○観光ルート・広域 PR

- ・国道 243（白樺～峠～屈斜路）のルートをシーニックバイウェイとして明確に宣伝し、知床・屈斜路・阿寒などへの動線を整備。町による広域観光 PR を推進する。

○農業・林業の体験・発信

- ・クレードル食品やサンマルコ食品があることをアピール・宣伝し、農業加工の PR も行う。
- ・グリーンツーリズムとして他県高校生の受け入れや農業体験を実施。
- ・FSC（認証）の宣伝・植材ツアー、林業体験・廃材を活用した巣箱づくりなども展開する。

○コーディネート・サポート

- ・ツアー企画など農家等へのコーディネート活動を行い、町民によるアクションを行政がサポートする。

＜町民主体で取り組むアクション＞

○情報発信・SNS 活用

- ・農産物や地域資源を町内外へ発信する。
- ・SNS による美幌の PR（食べ物、観光）を行う。
- ・登録者数 80 万以上の Youtuber を招待して農業体験・林業体験を発信する。

○体験プログラム

- ・農業体験・キャンプ体験を行う。
- ・朝採れアスパラ収穫＋試食ツアーを開催する。
- ・プログラミングスクールの有償体験を行う。

○地域資源の活用

- ・地元農産物を町民が気軽に買える販売の仕組みづくり。
- ・町の歴史（海軍跡・零戦伝説）を活かす。
- ・町民観光ガイドによるツアーの開催。

＜行政と町民主体の間＞

- ・農家・観光・商業をつなぐマネジメント活動。
- ・町職員による YouTube を活用した PR。（ユーチュー部）

【イベント・にぎわいグループ】

＜行政と役割分担しながら取り組むアクション＞

○中心市街地の整備

- ・街中に道の駅やコワーキングスペース、新しい図書館（大通り側）を整備する。

○イベント企画・開催

- ・町民に深めてもらいたいテーマを楽しくイベント化する。
- ・音楽やダンスと組み合わせて参加しやすい防災イベントを開催する。
- ・歩行者天国にして中心地でイベント開催。
- ・イベントの充実（近隣の町と合同運動会、外国人住民との交流イベント、冬まつりなど季節のイベント）
- ・歴史背景（海軍跡・零戦伝説）を生かしたイベントを開催する。

＜町民主体で取り組むアクション＞

○空き家・空き店舗活用

- ・空き家、空き店舗の活用（ゲストハウス運営など）。

○定期イベント・マーケット

- ・誰でも参加できるフリーマーケットを毎月定例で開催する。
- ・商店街イベントの支援・補助金。

○地域イベント

- ・アイスキャンドルイベントを開催する。
- ・町内会の公園での盆おどりを開催する。
- ・ストリートピアノを設置する。
- ・野外音楽イベントを開催する。
- ・よさこいのような他市民を巻き込む大きなイベントを開催する。
- ・大人が手伝って高校生が企画するイベントを開催する。

＜行政と町民主体の間＞

- ・空き店舗での美幌高校生徒による農産物販売。

【デジタル・情報・防災グループ】

＜行政と役割分担しながら取り組むアクション＞

- ・広報誌を活用した情報周知。
- ・津別町のようなインタビュー型の映像作成と動画配信。（津別では役場内で再生中）
- ・報道（テレビ）へのイベント実施案内。夏祭り・花火、美幌観光和牛まつり等を積極的に売り込む。
- ・学校の防災授業における警察・消防・自衛隊との連携。現在は旭小学校のみ実施しているため、各学校でも実施してはどうか。

＜町民主体で取り組むアクション＞

- ・イベントサイトの周知。（ローカルイベント）
- ・タイミーの活用。
- ・町民向け講座を開催する。（AI 活用、ものづくり）
- ・若者が集まるような、町内会の新たな形を考える。
- ・気軽に投稿できるサイトの的なものを作成する。
- ・共通の興味を持つ有志などで冊子などを作りやすい仕組みをつくる。（「好き」の情報発信）
- ・若者が高齢者へスマホ・LINE 講座を開催する。

＜行政と町民主体の間＞

- ・情報発信のアドバイスをするチーム的なものを作る。
- ・防災イベントを開催する。
- ・デジタル技術をテーマにしたイベントを開催する。
- ・まちの情報冊子を作って配布する。

【地域・コミュニティグループ】

＜行政と役割分担しながら取り組むアクション＞

○担い手育成・支援

- ・地域のリーダーや担い手の育成（人材育成）。
- ・ボランティア活動の紹介（ただしハードルが高い点に留意）。
- ・子どもの託児の整備（昔は近所の人が子どもの面倒を見ていた文化の再生）。
- ・コミュニティスクールの設置。

＜町民主体で取り組むアクション＞

- ・ボランティア活動。
- ・自治会や老人クラブに所属していなくても気軽に参加できる窓口づくり
- ・見守り活動（訪問など）。
- ・若者が地域コミュニティに参加するきっかけづくり。

＜行政と町民主体の間＞

- ・自治会館を使ったイベント開催（居酒屋など）（まず「使っていいよ」をアピール）。
- ・近隣の若者と高齢者のマッチング。
- ・高齢者宅の除雪活動。